



Endo Kikyo Maternity Clinic

ひらく先生の
マタニティだけじゃないブログ

がん検診

どのぐらいの頻度で受けてますか??

「がん検診を受けていないかも…」そう感じている方は、意外と多いかもしれません。
婦人科のがんには、主に子宮頸がん、子宮体がん（子宮内膜がん）、卵巣がんがあります。
このうち、検診として有効性が確立しているのは子宮頸がん検診です。

日本では、**20歳以上の方に2年に1回の子宮頸がん検診が推奨**されています。

子宮頸がんは、予防と早期発見が大切です

子宮頸がんの多くは、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が関係しています。HPVワクチンは、**小学校6年生～高校1年生相当の女子**を対象に定期接種が行われています。ワクチンを受けていても、受けていなくても、検診は大切です。
早い段階で見つけることで、治療の選択肢が広がる可能性があります。

子宮体がん・卵巣がんにも注意しましょう

子宮体がんは、不正出血をきっかけに見つかることがあります。月経以外の出血や閉経後の出血があれば早めに受診しましょう。
卵巣がんは、初期には症状が目立たないことがあります。
なお、子宮体がん・卵巣がんには一般的な検診は確立していません。超音波検査は、症状に応じて行います。

最近話題のHPV検査について

現在、日本では子宮頸がん検診として、従来の細胞診に加え、条件を満たした一部自治体でHPV検査単独法も実施されています。細胞診は20歳以上で2年に1回、HPV検査単独法は30歳以上で5年に1回が目安です。

受けられる検査は自治体によって異なるため、住民検診の案内を確認しましょう。

【自分のことは、自分で守る】

20歳を過ぎたら、2年に1回の子宮頸がん検診を。

そして、不正出血や月経不順など気になる症状があれば、検診を待たずに受診を。



Endo 副院長 医学博士 遠藤 拓先生

当院は分娩を取り扱うマタニティクリニックですが、マタニティ（産科）前後の女性の悩み事、婦人科関連の情報や、社会情勢についての情報を皆様にお伝えできたらと思っています。